

潟上市地域公共交通網形成計画(案)

【概要版】
平成29年3月

1 計画の背景と目的

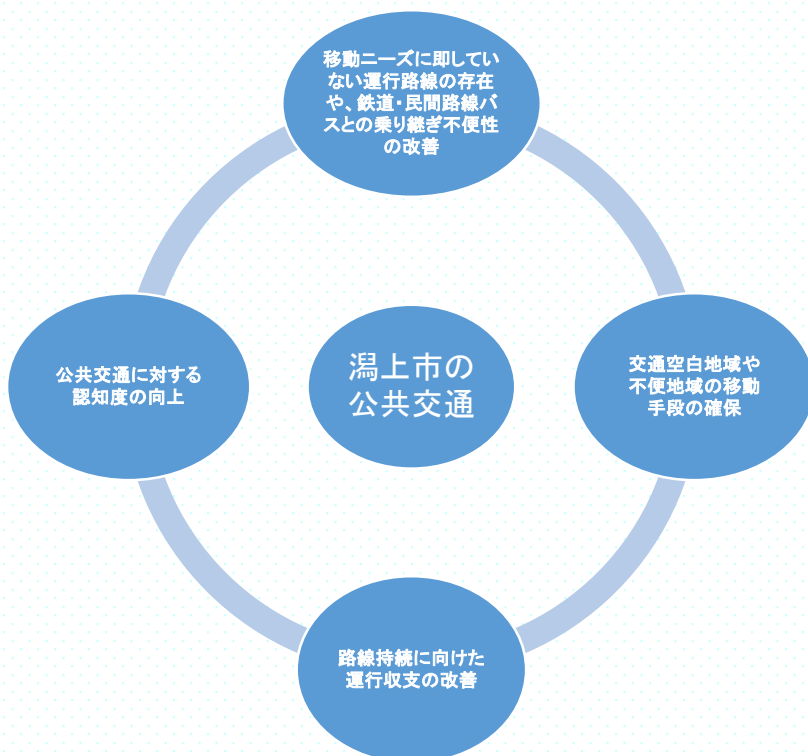
本市の公共交通は、鉄道とバス路線を中心に構成されており、鉄道2路線のほか、民間交通事業者が運営する路線バスと本市が運営主体となっているマイタウンバスの運行によって、市民の市内外への移動を支える重要な役割を担っていますが、自家用車利用の拡大や人口の減少と少子高齢化社会が進むなか、総じて利用者が低調に推移しています。

今後は高齢化がさらに加速し、高齢者など交通弱者の移動を支える地域の公共交通は一段と重要性を増す見込みで、バス路線を中心とする地域公共交通の維持・確保への取り組みが重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、本市では理想の将来像の実現に向けて、まちづくりと一体となった持続可能で利便性の確保された公共交通ネットワークの形成を推進することとし、「潟上市地域公共交通網形成計画」を策定します。

2 潟上市における公共交通の主な課題

本市の公共交通の現状把握のため、今回実施した現況調査や市民アンケート調査、路線バスや鉄道の利用者に対するアンケート調査からうかがえる公共交通に関する問題点の解決に向け、以下の4つの課題を設定します。



3 計画の理念及び基本方針

本市が「第2次潟上市総合計画」において目指すまちづくりの将来像「みんなで創る しあわせ実感都市 潟上～文化の風薫る 笑顔あふれるまち～」を実現するために、公共交通がその役割を果たしていく上で、市民の生活圏内における移動の確保や外出機会の増加を最重要と考え、本計画の基本となる理念や方針を次のように定め、市民、交通事業者、行政が連携し主体的に取り組むことで、将来にわたり持続可能な公共交通網の構築を進めます。

【理念（将来像）】 安心・快適な住みよいまちの公共交通

本市の公共交通の役割は、市民に必要な公共交通サービスを提供することによって、交通弱者を中心に誰もが買物や通院、通勤、通学等の目的に応じて安心・安全に利用できる環境をつくり、快適で住みよいまちづくりに主体的に関わることを考えます。

基本方針1 市民の交通手段の転換を促す公共交通の利便性向上

市民が「マイカーよりも公共交通を利用したい」と思えるような利用者ニーズに対応した公共交通ネットワークの構築を目指します。

基本方針2 市民自らが地域の生活移動を支える意識・機運の向上

交通事業者のほか、域内企業、関係団体等も含め、本市全体で公共交通の利用促進に取り組み、「市民がしあわせを感じることができるまちづくり」の実現に向けて、市民自らが利用者として地域の公共交通を支える意識の醸成を図ります。

4 計画の目標

本市の公共交通に関する課題を克服し、目指す本市の将来像を具現化するため、5つの目標を設定し、これに対応した施策を実施します。

目標 1 効率的かつ運行水準を確保した公共交通への再編

路線のもつ機能を最大限発揮させ、利便性の向上を目指します。

目標 2 交通結節点の明確化と環境の整備

鉄道駅や地域拠点における乗り継ぎ環境の整備により交通結節点での利便性向上を目指します。

目標 3 行政・事業者・地域が一体となった利用促進活動の展開

市民や各種団体と連携し公共交通を全体で育むことで、意識の醸成や地域の活性化につなげます。

目標 4 交通空白地域や不便地域に対する日常生活に必要な移動手段の提供

利用需要に見合った運行形式・運行形態を踏まえた上で、デマンド交通等の導入を図ることで公共交通空白地域を解消し、地域住民の移動の手段を提供します。

目標 5 まちづくり施策と連携した移動の支援

まちづくり施策と連携し、人々が集う観光拠点施設における公共交通の利便性を高め、地域公共交通のサービス充実と利用者増加を実現します。

5 目標達成に向けて実施する施策

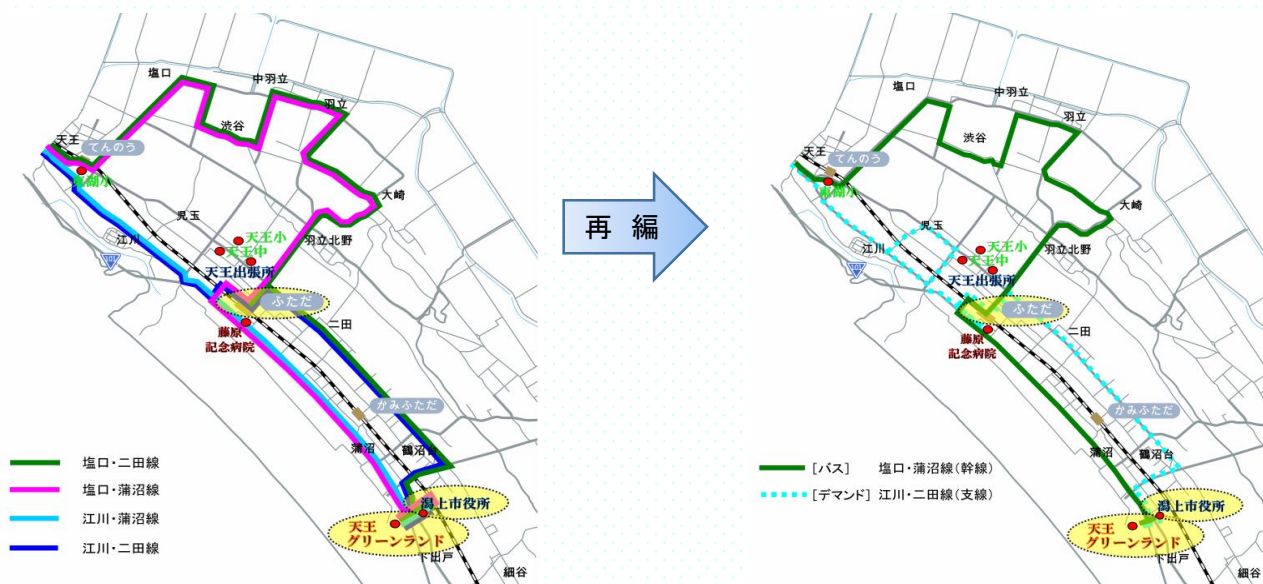
計画の目標を達成するため、5つの目標に応じて以下の施策を実施します。

なお、施策の実現に向けて、平成30年度を目標に地域公共交通再編実施計画を策定することとし、事業について検討を進めます。

目標 1 効率的かつ運行水準を確保した公共交通への再編

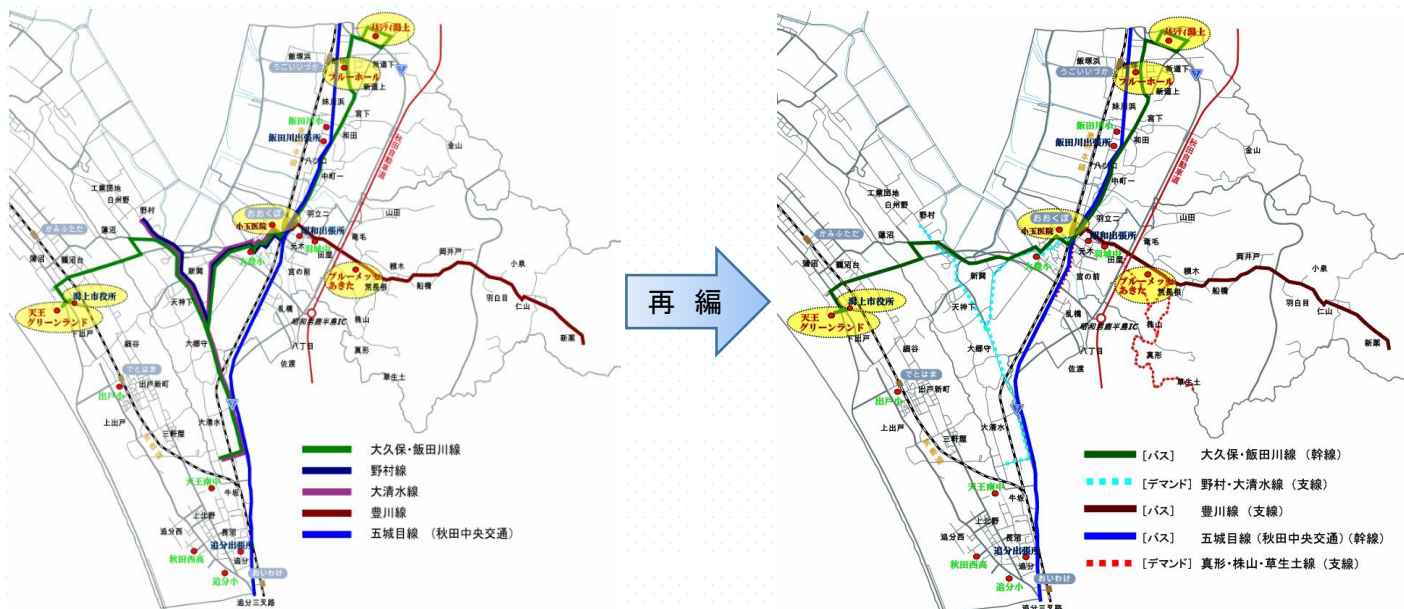
◇施策1→路線の効率化（天王・二田・湖岸地域）

現在運行している塩口・蒲沼線は二田駅・天王グリーンランド・潟上市役所を繋ぐ路線であるため幹線として設定し、利便性向上に向けてダイヤの調整を行います。また利用率の低い塩口・二田線、江川・二田線、江川・蒲沼線については重複箇所を整理しシンプルで分かりやすい路線とするため、定時定路線型デマンド交通の導入を検討し支線として位置づけ、幹線（塩口・蒲沼）に接続となるよう便数・ダイヤを調整します。



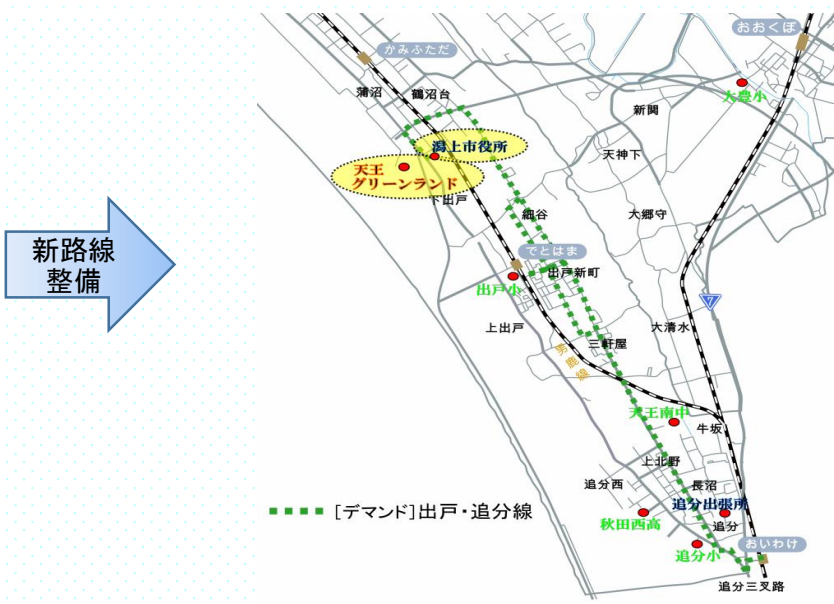
◇施策2→路線の効率化（昭和・飯田川地域）

現在運行している大久保・飯田川線はメルシティ潟上・ブルーホール・大久保駅・潟上市役所を繋ぐ路線であるため幹線として設定し、利便性向上に向けてダイヤの調整を行います。また利用率の低い野村・大清水線については定時定路線型デマンド交通の導入を検討しながら支線として位置づけ、幹線（大久保・飯田川線）に接続となるよう便数・ダイヤを調整するほか、豊川線についても幹線と接続となるよう便数・ダイヤを調整します。



◇施策3→新規路線の整備（出戸・追分地域）

交通空白地域の解消と生活に必要な移動手段の確保を目的に、定時定路線型のデマンド交通の導入を検討します。またこの路線を支線と設定し幹線と接続させることにより天王・二田地域、大久保・飯田川地域など市内全域への移動手段を確保します。

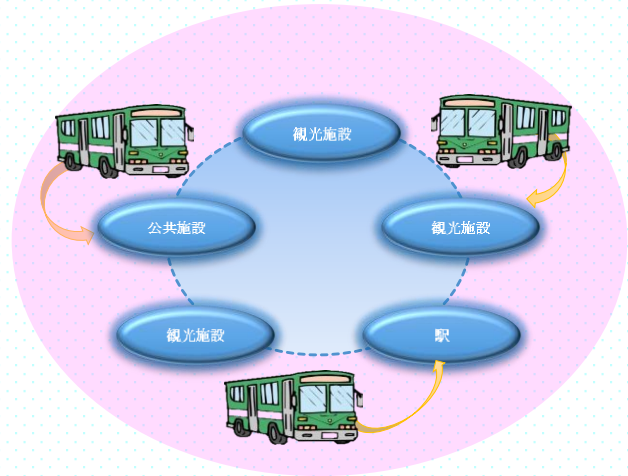


目標 2 交通結節点の明確化と環境の整備

◇施策4→ハブ拠点の明確化による路線の再編

駅や公共施設・観光施設などをハブ拠点として設定し、複数の路線が経由・発着できるよう路線を再編することで目的地までスムーズな乗り継ぎが可能となるよう改善します。また、ハブ拠点では乗り継ぎの案内表示の充実を図ります。

ハブ拠点を設定することにより、バス⇄バス、鉄道⇄バスの乗り継ぎがスムーズになり利便性が高く効率的な運行になります。



◇施策5→乗り継ぎ環境の向上

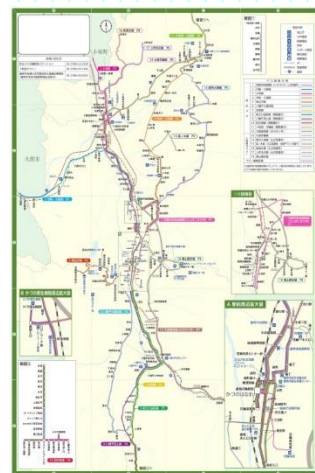
利用者の乗り継ぎに対する抵抗感を解消するため、乗り継ぎ割引制度の導入を検討し利用者負担の軽減や利便性の向上を図ります。

- 割引が適用となる場合（案）
- ・マイタウンバス ⇒ マイタウンバス
 - ・デマンドタクシー ⇒ マイタウンバス
 - ・マイタウンバス ⇒ デマンドタクシー
 - ・秋田中央交通路線 ⇒ マイタウンバス
 - ・秋田中央交通路線 ⇒ デマンドタクシー



◇施策6→情報提供の促進

- ・市内の生活バス路線を網羅した時刻表を市内全戸に配布します。
- ・ホームページの公共交通情報を強化します。
- ・ハブ拠点の周知と乗継案内を分かりやすい表記にします。



◇施策7→普及啓発活動の実施

- ・利用者及び交通事業者との懇談会を開催し、公共交通の問題や課題、要望の聞き取りを行い公共交通に関する情報交換を行います。
- ・市広報紙への記事掲載やチラシの折り込みにより、公共交通利用について幅広く周知します。
- ・免許返納者や高齢者に対しての割引制度を検討しながら新規利用者の掘り起こしを行います。



◇施策8→まちの活性化や高齢者等の外出機会増加に繋がる観光施設との連携サービスの実施

観光施設である天王グリーンランド、ブルーメッセあきた、ブルーホールの各団体と連携し、バス利用者に対する特典・優遇制度を検討しながら新規利用者の掘り起こしやリピーターの確保を行います。

◇施策9→交通空白地域の解消と拠点施設を結ぶ移動手段の提供

幹線及び既存バス路線から半径500mの範囲より外側の地域に対して、フルデマンド交通及び定時定路線型デマンド交通の導入を検討し、移動手段を提供します。またハブ拠点と接続させることにより市内及び市外への移動手段を確保します。デマンド交通導入にあたっては、交通事業者・地域住民・市の合意のもとに利用に関する数値基準を定めるトリガー制度を導入します。これにより数値基準を下回らないように利用促進策を実施し、それでも下回る場合には関係者合意のもと、運行の見直しを行います。

■フルデマンドの特徴

利用者からの要望(予約)に応じてルートを設定し、運行する形態。需要に応じて、一部を変更したり休止したりすることができる為、需要の少ない地域でも効率的な運行が可能となります。あらかじめ、迂回するルートが決まっている方式や、利用者からの予約に応じて運行ルートを決める方式があります。

■定時定路線型デマンドの特徴

あらかじめ迂回するルートが決めてられており、利用者からの事前の要望(予約)に応じて、停留所間の決められたルートを迂回運行するタイプで、ある程度ルートが決まっているので運行時刻が読みやすいのが特徴です。

◇施策10→まちづくり施策と合わせた循環路線の整備

マイタウンバスの運行のない日曜祝日に、交流拠点である天王グリーンランド・ブルーメッセあきた・ブルーホールや生活拠点であるメルシティ湯上をネットワーク化した循環の路線を整備します。



6

施策の実施スケジュール

本計画の計画期間（平成29年度～平成33年度）において、下表のスケジュールで施策を実施します。

施策		スケジュール				
		H29	H30	H31	H32	H33
1	路線の効率化(天王・二田・湖岸地域)			市民への周知	再編の本格運行	
				運行関連申請手続		
				再編の実証運行		
2	路線の効率化(昭和・飯田川地域)			市民への周知	再編の本格運行	
				運行関連申請手続		
				再編の実証運行		
3	新規路線の整備(出戸・追分地域)			市民への周知	新規路線の本格運行	
				運行関連申請手続		
				新規路線の実証運行		
4	ハブ拠点の明確化による路線の再編			市民への周知	再編の本格運行	
				運行関連申請手続		
				ハブ拠点の整備等		
				再編の実証運行		
5	乗り継ぎ環境の向上			市民への周知	乗り継ぎ制度導入実施	
				関係機関との調整		
				運行関連申請手続		
6	情報提供の促進			時刻表作成・配布	車両表示実施	
				マップ作成・配布		
				車両表示検討		
7	普及啓発活動の実施			啓発活動実施		
8	まちの活性化や高齢者の外出機会増加に繋がる観光施設との連携サービスの実施	制度の検討		各団体との調整	制度実施	
9	交通空白地域の解消と拠点施設を結ぶ移動手段の提供			空白地域への説明	本格運行	
				運行関連申請手続		
				実証運行		
10	まちづくり施策と合わせた循環路線の整備			市民への周知	循環型路線の本格運行	
				関係機関との調整		
				運行関連申請手続		
				循環型路線の実証運行		

本市の公共交通の課題克服に向けて設定した目標について、その達成度を把握するため、以下の評価指標を設定します。

なお、計画最終年度の目標値のみ設定していますが、計画期間中継続して行う事業や、毎年指標を把握できるものについては、その都度進捗状況を確認することとします。

(1) 目標1 効率的かつ運行水準を確保した公共交通への再編

評価指標	現況値(H28)	目標値(H33)
①路線の経路、便数、ダイヤ等について改善を行ったあとの利用者数	18,808人	22,500人
②路線バス等の利用した割合 (市民アンケート)	6.3%	10.0%

(2) 目標2 交通結節点の明確化と環境の整備

評価指標	現況値(H28)	目標値(H33)
③鉄道とバス、バス同士の乗り継ぎがよくなることを求める割合(潟上市市民アンケート)	44.4%	20.0%
④主要施設の循環を良くすることを求める割合 (潟上市市民アンケート)	41.2%	20.0%

(3) 目標3 行政・事業者・地域が一体となった利用促進活動の展開

評価指標	現況値(H28)	目標値(H33)
⑤連携サービス実施事業者数	—	4箇所
⑥広報誌の掲載及び普及啓発パンフレットの配布回数	—	年4回

(4) 目標4 交通空白地域に対して日常生活に必要な移動手段の提供

評価指標	現況値(H28)	目標値(H33)
⑦交通空白地域の解消	6箇所	3箇所

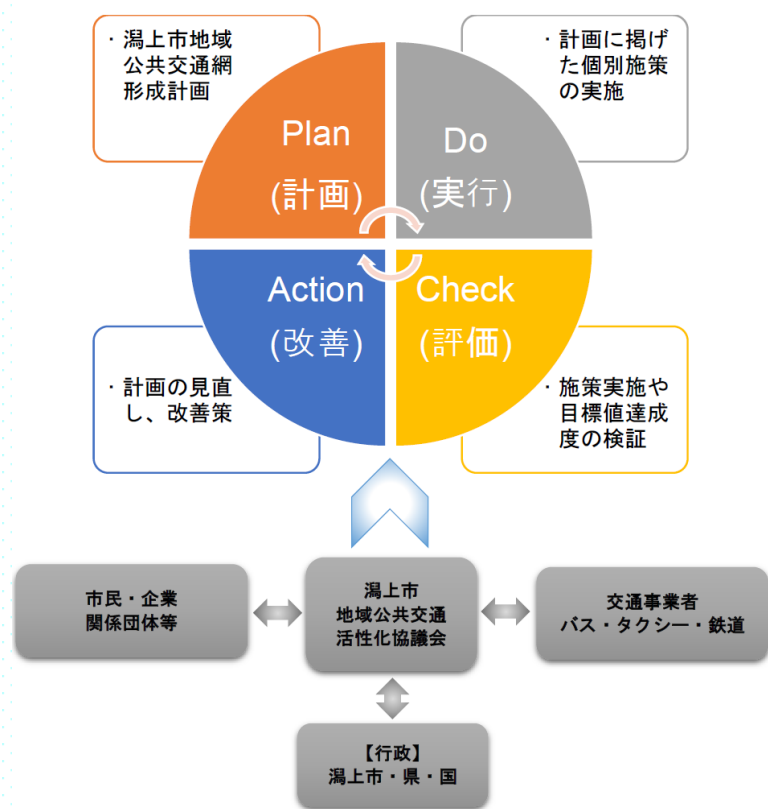
(5) 目標5 まちづくり施策と連携した移動の支援

評価指標	現況値(H28)	目標値(H32)
⑧循環路線の新設	—	1路線



潟上市マイタウンバス

本計画の評価については、原則として計画期間（平成29年度～平成33年度）の終了時としますが、施策の実施状況や目標達成度の評価・検証を行い改善を図るPDCAサイクルを導入し、市が事務局を務め、市民や公共交通関係団体、市内公共交通事業者、行政等で組織する潟上市地域公共交通活性化協議会を中心に、関係者の連携のもとPDCAサイクルを確実に実行し、地域が一体となり持続可能な公共交通網の形成を目指す体制とします。その際、目標や事業内容等について随時検討し、必要があれば事業等の見直しを行います。



■ 地域公共交通網形成計画の評価スケジュール

計画策定	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
網形成計画策定			計画の推進		
目標・事業内容等			必要に応じて、事業等の改善や見直しを図る		
毎年度評価するもの		評価	評価	評価	評価
5年に1度評価するもの					評価
					網形成計画の変更

潟上市地域公共交通網形成計画の詳細については、下記にお問い合わせください。

潟上市
総務部企画政策課

☎018-853-5302 FAX018-853-5211